

# きもの豆知識

## 小物の衣替えについて

少しずつ暑い日が増えてきました。5月6月は衣替えの季節となります。今回は夏に向かって、帯・帯揚げ・半衿の素材別の早見表を掲載しました。小物の衣替えは着物や帯などに比べて少し先取りで変えていくとよいと思います。

		5月			6月			7月			8月			9月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
帯	冠組・観世揃り	—————														
	夏向き（レースなど）				—————											
帯揚げ	紹縮緬				—————											
	紹				—————											
	紗				—————											
半衿	紹縮緬				—————											
	紹塩瀬				—————											
	麻				—————											

————— 基本ライン    ||||| 許容ライン

これが基本ですが、環境の変化、地域性などによって違います。基本を踏まえたくうえで、自分の肌感覚にあった許容ラインを考えていきましょう。

# 歌舞伎のススメ

## ～庶民にとっての歌舞伎～

今でこそ少しおしゃれをして出かける場となっていますが、江戸時代の歌舞伎は庶民の娯楽。芝居小屋に着くと、棧敷席の上客は芝居茶屋に通され、庶民は木戸銭を払って平土間へ。平土間の桝席は当時のお金で8000円程だそうです。今の映画館より安いんですね。もちろん棧敷の最上等席は十万元以上したそうですが、庶民からお金持ちまで、町民すべての娯楽であったことが伺えます。

また、芝居見物のもうひとつの楽しみが飲食で、そばや汁粉などの屋台が芝居小屋の周りに並んでいたほか、芝居中にも弁当や酒、たばこなど何でもありだったようです。さらに寒い季節にはこたつなんかも使用できたといえます。

さて、ここで問題です。この庶民の娯楽である歌舞伎の営業時間は何時から何時だったのでしょうか？

芝居の開幕は日の出の時間の明け六つ（午前6時）から終演は暮れ六つ（午後6時）まで。今の感覚からすると開演も終演も早すぎる気がしますが、電気などがなかった時代にはもっとも効率のいい営業時間だったんでしょうね。



かわちやの

## 着付教室 12回

1回1000円

かわちやの着付け教室ではそれぞれの目的やスケジュールにあわせたカリキュラムを組んでいきます。

お気軽にご相談ください。

お問い合わせは

TEL 0563-35-0039 大橋幸子まで

かわちやの  
ワンポイント着付教室  
**1,000円**  
半巾帯の結び方など  
ピンポイントでお教えします。  
(2時間)

## 和裁士さん募集！

浴衣を縫ってくれる和裁士さんを募集しています。

詳しくは 0536-35-0039 大橋まで

## 着物クリーニング

何でも 汚れの種類や程度によって追加料金がかかる場合がございます。

2点7,560円

着たあとのお手入れは大切！

草履・下駄はありますか？

履物の調整

1足500円



季節のお勧め品

## 家田紙工 水うちわ



水に少し濡らして扇ぐことでよりいっそう涼しさが増します。日本の夏に涼をよぶ、粋で風情あるうちわです。

お部屋のインテリアやプレゼントに最適です。

8,340円

## イベント案内

白鷹の織物と型染展

同時開催

夏の着物と浴衣展

5月14日（土）～16日（月）

